

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 学校法人嶺南学園敦賀気比高等学校付属中学校
(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒914-8558

福井県敦賀市沓見164-1

E-mail y.nunokawa@tsurugakehi.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 34 名 女子 28 名 合計 62 名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「時習・自律・慈愛」を校訓とし、その実現を図るために、ESDの実践を通して、自ら考え、自ら学びながら、1年生から3年生までの縦割り班を設け、地域の環境を守り、地域の人々、他世代の人々と交流する力を育成し、ESDの実践を地域に発信する力を育成するとともに、異学年生徒が同一班で活動することにより、持続可能な活動とすることを目標とした。

他学年との協働の学びを「総合的な学習の時間」を通して実践し、

具体的には、1班はラムサール条約湿地に登録されている敦賀市にある中池見湿地における水質調査活動、水生生物調査活動を、2班は中池見湿地における米作り活動、学校敷地内での野菜作り、3班は不要品バザー活動、不要になった絵本の回収と寄付活動、介護施設に入所しておられるご老人への残暑見舞いの送付活動、英語と日本語による敦賀市の観光パンフレットの作成活動を柱に、①「暮らす」の観点から中池見湿地の水質調査を実施し、環境問題についての学習を、②「生きる」の観点から中池見における水生生物を調査し、生き物の観察活動を、③「食べる」の観点から中池見湿地での無農薬米の栽培を通じた食料の生産と昔ながらの稲作文化についての学習を、④「食べる」の観点から学校での野菜栽培を通して、季節と食の関わり、食料の生産と消費に係わる学習を、

⑤「暮らす」の観点から、自分たちが住む町の人とのつながりについて、不要品バザーの実施や、介護福祉施設への残暑見舞いの送付、地域の保育園、病院への絵本の寄付活動、保育園へのチューリップの贈呈を通し、学習、⑥「国際理解教育」の観点から、敦賀市観光案内パンフレットを日本語、英語を併記して、外国人用に作成し学習した。⑦「ユネスコスクール相互間交流」の観点から、3年生全員が、修学旅行時に、東京都大田区立大森第六中学校3年生の皆さんと交流をし、「持続可能なまちづくり」について両校の生徒が各班に分かれて、それぞれ話し合い、発表をした。⑧「暮らす・生きる」の観点から、「つるが環境未来ネットワーク」主催の「ホテル鑑賞会」に参加し、「中池見における水質調査」についての発表を行い、地域の人、地域企業の人、子供たちと環境学習を通して、交流を行った。

⑨持続可能な開発のための教育の推進拠点として、「総合的な学習の時間」におけるユネスコスクールとしての各班の活動を保護者を呼び、成果報告会と題して発表し、持続可能な開発のための教育の理念の普及に努めた。⑩「生きる・暮らす」の観点から、「NPO 法人中池見ねっと」主催の報告会において、地域の人々、地元の小学生、高校生、その他、大学教員等に対し、「中池見における水質調査」の結果報告を行い、環境学習と地域交流を行った。



① (中池見 水質調査)



② (水生生物調査)



③ (無農薬米づくり 田植え)



④ (野菜栽培)



⑤ 絵本の寄付

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--|---|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「総合的な学習の時間」を、全学年にわたってユネスコスクールの活動の時間とし、1年生～3年生で縦割りの班編制を行った。全学年「総合的な学習の時間」を学校全体で合同で実施。クラス担任以外に、各班に担当教員を配置し、班ごとの年間の活動計画、活動目標を立て、その中で年3回は、班ごとに中池見湿地等に分散し、フィールドワークを行った。また、年度末に、総合学習成果報告会として、高校の教員や保護者の前で活動報告を実施した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全学年を縦割り班にすることで、3年生、2年生、1年生の異学年交流を通して、継続的に活動を行えるようにし、各班に担任以外にも、担当教員を配置して、活動を行った。また、活動時間は総合的な学習の時間とし、全学年時間割を同時間とし、一斉に活動できるようにし、組織的な活動が行えるように配慮した。また、中池見ねっとなどのNPO法人のご協力も得ながら活動を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に、その1年間の活動内容について、各班毎にパワーポイントを作成し、中学部以外の教員や、中学部生徒の保護者を呼び、学校にて、「総合学習成果報告会」を実施し、各発表の後、質疑応答を通して問題点や反省点を確認し、来年度へ向けての課題などを確認した。敦賀市観光パンフを英文を交えて、外国人にも分かるように作成し配布したり、バザーや保育園や病院への絵本の寄付など外部の人たちと交流を行ったり、地域交流ができた。課題としてフィールドワークの回数を増やすことがあげられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「つるが環境未来ネットワーク」主催の「ホテル鑑賞会」に参加し、地域の人、地域企業の人、子供たちと環境学習を通して、交流を図り、また、「NPO 法人中池見ねっと」主催の「中池見みんなで報告会」において、そこに参加した地域の人々、地元の小学生、高校生、その他、大学教員等に対し、「中池見における水質調査」の結果報告を行った。さらに、つるが環境みらいネットワーク主催の「つるが環境フェア」に活動内容をポスター展示し環境学習の成果を発信し地域交流を図ることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

今年度6つのテーマのもと、活動したが、その中で、「中池見水質調査」「中池見水生生物調査」「中池見での無農薬による生物との共生を図る米作り」の3テーマについては、「NPO法人中池見ねっと」の指導員の方や、その地域の農家の方の指導を仰ぎながら、活動を支援していただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

3年生が、10月の修学旅行時に、ユネスコスクールである東京都大田区立大森第六中学校の3年生と交流会を持たせていただき、両校の生徒が各班に分かれて、「持続可能なまちづくり」について、それぞれ話し合い、発表をするという機会を、大森第六中学校の先生方のご尽力により持つことができ、生徒たちは他校の優れたユネスコスクールとしての活動状況に大いに刺激を受け、自分たちの活動を改めて考えることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒たちは、ユネスコスクールでの活動を通して、地域の環境について調査し考察したり、地域の人々との交流の機会を得たり、異学年間の縦の繋がりの中での活動を経験することができたり、東京という都会の中学生と交流できたりという幅広い活動を経験することができ、通常の学習では学ぶことのできない学習経験を積むことにより、積極性や、観察力、コミュニケーション力などを養うことができた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

英語を用いた敦賀市観光パンフレットをさらに内容の充実したものにし、その配布を通して、地域との交流を深める。
不用品バザーを継続し、より発展したものとする。
中池見における水質調査については、来年度、人数を絞り、中池見でのデータ収集を充実させるため、調査回数を増やし、より深く考察できるようにする。
米作り、野菜作りについては、来年度、実施するかどうかも含め、改めて検討する。
現時点では、これらの活動を継続しつつ、来年度の生徒たちによって、具体的な計画を立て、実施していく。そのため、来年度、新たに実施する活動も出てくると思われる。